

## 区民会議意見交換会の実施結果

平成30年2月2日実施

参加者…区民会議委員 42名

川崎市市民文化局コミュニティ推進部区政推進課

## 区民会議意見交換会

### 開催概要

- 開催日時：2018年2月2日（金）18:00～20:30（2時間半／150分）
- 開催場所：エポックなかはら 7階大会議室（武蔵）
- 参加者：42名（南北で7グループを編成）
  - ※区ごとの参加者数：川崎5／幸6／中原8／高津6／宮前6／多摩5／麻生6
- 目的：区民会議は平成30年度以降一旦休止し、区民会議を含むコミュニティに関わる組織のあり方やしくみを考える、「新たなしくみ」の構築に向け、区民会議委員にアンケート調査を行い、その結果も踏まえながら、希望する委員を対象として意見交換会を行い、区民会議の成果や課題を振り返り、20年後に残しつつなげ  
ていくべきものを整理します。

### 当日の流れ

#### 1) 18:00 開会／あいさつ



#### 2) 18:05 目的と進め方

#### 3) 18:10 何故新しいしくみが必要なのか？／アンケート結果の報告



- ・市から、何故新しいしくみが必要なのか？共に支え合う地域づくり検討委員会での検討の経緯を踏まえて説明しました
- ・アンケートの結果をベースに、成果、課題、今後求められる機能について確認しました

4) 18:30 **グループワーク1** 「区民会議の成果と課題を確認しよう」

・ 自己紹介

グループごとに「自己紹介シート」を使用して「名前・所属・区の好きなところ」を自己紹介しました



・ 区民会議の成果と課題をポストイットに書いて出し合う

自己紹介シートにあらかじめ貼ってある黄色のポストイットに区民会議の成果を、ピンクのポストイットに区民会議の課題を1人2~3枚記入。ファシリテーターがKJ法で整理しました

また、20年後のミライに残したいと思うキーワードにシール投票をして、グループの中の優先度付けを行いました



5) 19:10 休憩

6) 19:20 **グループワーク2** 「ミライがこんなコミュニティになったらいいなを語ろう」(40分)



・ 20年後を想像してみよう～自分や家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えました

・ 新たなしくみのアイデア出し～想像したミライのために、地域コミュニティにはどんなしくみがあったらいいかを意見交換しました

・ まとめシート作成

議論の成果を「コミュニティのミライのしくみ」という視点でまとめました

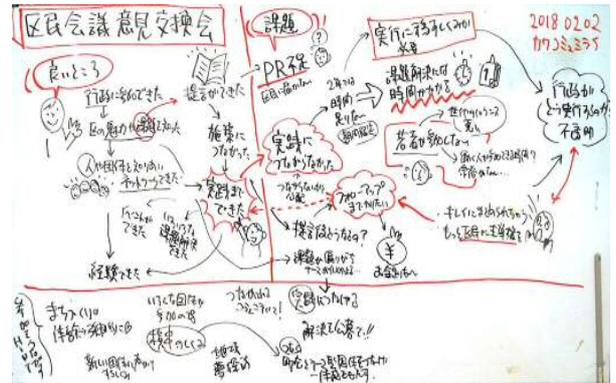


## 区民会議の成果と課題

グループワーク1では、「区民会議の成果と課題を確認しよう」というテーマで議論しました。

主な意見としては、行政の取組に参加でき、人や団体との交流のきっかけや、区の魅力や課題を知り、その解決に向けて提言やアクションができたということが成果として挙げられました。

一方、その提言が解決に向かうためのフォローアップに関われないこと。課題の偏り。PR不足や世代のバランスなどが課題として挙げられました。



### ○成果と課題の主なキーワード

区民会議の成果 (参加して良かったこと)	区民会議の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動など様々な経験ができた</li> <li>様々な人や団体と知り合い、ネットワークができた</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>区の魅力や課題を知ることができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR不足 (取組や課題が区民に届いていないのではないか?)</li> <li>課題が偏りがち/テーマが似かよる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の提言ができた</li> <li>提言が施策につながった</li> <li>提言だけでなく実践までできた</li> <li>課題解決に向けてイベントや実践的な取組ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提言後どうなるのか? 提言が実践につながらないかと思うと心配</li> <li>実践につながらなかった。課題解決には時間がかかる <ul style="list-style-type: none"> <li>→任期2年では時間が足りない</li> <li>→フォローアップまで関わりたい (そのためには予算が足りない)</li> </ul> </li> <li>行政がどう実行するのかが不透明 <ul style="list-style-type: none"> <li>→キレイにまとめられてしまう</li> <li>→もっと区民に主導権がほしい</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の取組に市民として参加できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代のバランスが悪い</li> <li>若者が参加しない <ul style="list-style-type: none"> <li>→働く人が参加できる時間に開催? 働いている世代は余裕がない?</li> </ul> </li> </ul>

## コミュニティのミライのしくみ

グループワーク2では、20年後のミライを想像しながら、地域のミライはどんな風になっているのか？そのために、地域コミュニティにはどんなしくみがあったらいいかについて意見交換を行いました。

コミュニティのあり方、担い手の増やし方、多世代交流、コミュニティの範囲、地域ニーズの把握、課題解決策などのキーワードで多様なアイデアが集まりました。



キーワード	コミュニティのしくみのイメージ
コミュニティのあり方	身近な顔の見える関係での互助活動が充実して、つながりあえる
地域の担い手を増やす (特に若者が参加できる)	できること／やりたいこと／得意なことを活かして貢献できる
	関心のあるテーマがある
	入口が広く気軽に参加できる（誰もが参加しやすい）
	活動を体験する機会がある
	いろいろな担い手が連携できる体制がある
	行政職員も参加・応援できる
	有償で関わるしくみがある
社会人や学生が地域に参加するインセンティブがある	
多世代交流	コミュニティの中で多世代交流できる場がある
コミュニティの範囲	活動単位は小中学校区ぐらい
	町内会・自治会を単位に全体をまとめるしくみがある
地域ニーズの把握	地域住民のニーズを把握する方法が工夫されている
課題解決策	課題解決への提言を解決するしくみがある（一般公募）
	課題解決活動が組織化しNPOなどとして独立できる
	テーマ限定で課題解決できる専門性のあるプラットフォームがある
	まちづくりを横串にできる組織がある
	小さな単位の活動を充実させるコーディネート機能がある
	空き家活用
	地域観光

## 各グループのまとめ一覧

グループ	まとめシートの見出し	補足／アイデア／例
1	できる限り多くの方に地域参加してもらう工夫として、「自分も力になれる」と思える活動テーマを投げかける！	防災・災害時→中学生
	多くの参加を図る切り口やテーマを考えるために、リアルなニーズや地域住民の実情を知る方法を工夫する。	若い世代のニーズ×インターネット
	まちづくりをする単位として、中学校区～小学校区くらいの小さな活動単位を考える(≠組織単位)	顔がみえる範囲！
	自分の好きなこと・得意なことをすることが、地域の課題解決にもつながるという発想の転換を！！	その入口をどうつくるかが大切
2	子育て世代・子ども・高齢者など、多世代が交流できる場づくりが大切。	背景としてある子育て世代のニーズ、高齢者の増加などの課題をコミュニティの力で解決。  (ex. 防災) 専門家を入れる
	テーマ限定で課題解決型のプラットフォームをつくる。	活動がNPOに発展してもOK(提案だけでなく実践までの実践) START UPの支援 防災などのテーマは何十年経っても大切で、誰かがやらないとダメ。区民会議はテーマ広い。
	働く世代・中高生・シニアが地域参加するインセンティブをつくろう。	【中高生】単位・強制でなく有利になる、子どもの主体性が上がる、自分のやりたい事と社会性をマッチさせるサポート。 【働く世代】企業とコラボ、有給消化、清掃、ボランティアに参加してもらう
	入口をオープンにして誰でも参加できるように呼びかけUP	外国人、タワーマンションの新住民の増加といった背景を踏まえる  個人や他人の自由を尊重したゆるやかな場づくりをしよう
3	少数でも「やりたい人」を発掘する	現役世代に参加してほしいが、多くの人に期待するのは無理
	コミュニティの担い手は、町会、活動団体、若い世代のいる子育てグループとの連携が実行の力になる	おもしろい、あまり拘束されない、自分の利益になる…
	「防災」をテーマにすると若い世代も地域に関わるきっかけができる 町会の活動に現役市の職員が「ちょっと仕事」として参加・応援してくれるといいナ！	
4	まちづくりを体験するキカイを強制的に得られる仕組み	でも“権利”でもありません
	みんなが同じ場で活動できる仕組み	町内会自治会の会合も、まちづくり活動も、PTAも子育てサロンも、外国人サロンも
	まちづくり横断になる組織を！	各団体を横断にできるような仕組み
	積極的に参加してもらえそうな声かけができるような仕組み	新しい視点を持つ新しいまちづくり団体や人を
5	互助でコミュニティの活性化	多世代コミュニティ 空き家の活用や用途地域の見直しにより多様性のある地域の実現 隣近所のちよつとおせつかできる関係を構築(雪かきもきっかけになる) 自治会などのコミュニティ単位を基本とし、全体をまとめるシステムもあると良い
	子どもたちがたくさん遊んでいる多様性のあるコミュニティの実現	若い人がいるコミュニティの実現 地域包括ケアシステムを完成させる
	身近な人が顔の見える関係で地域の代表になってほしい	町会長など、地域の代表は自分たちで選ぶようになると良い
6	小さな単位での課題解決を充実させる為の分かりやすい「コーディネート機能」をつくろう！	
	地域の中で気軽に悩みや相談話を話し合える、傾聴し合える「場」を充実させる！	悩み＝活動のことから生活のことまで
	区民会議で出された「提言」の解決を一般公募！(予算付き)	
	町内会／自治会による空き家活用の仕組みづくり！ 地域の観光＋美味探訪！	
7	もう自己犠牲で地域活動は担っていけないのではないかな。有償で、スキルや趣味などを活かせることが重要	中高大生が地域を支える体制？ 個人の趣味が「地域のため」につながる 有償ボランティア、謝礼
	町会や商店会など、従来の組織だけでは地域を活発にできない。地域に関わる活動をしている団体、町会、自治会、行政が一体感を持って活動できる仕組みができてよい	新しい受け皿がない(町会・商店会に代わる)  すでにある団体をまずはつなげる
	地域にコーディネーター、ファシリテーターが必要。地域の人の専門性を活かし、プライド、やりがいを持ってもらいながら活動できる体制づくりが必要	「赤ちゃん訪問事業」では、決められた通りにしか活動できないため専門性が発揮できず、プライドや誇りを持って活動できない 市民館のスタッフが替わり、専門性や地域への密着度が小さくなったため、市民の活動の幅も狭まっているように感じる
	市民館など地域を担う包括的な施設が小さな単位で設置されているとよい	こ文といこいの家を地域の包括的な拠点となる場所にするといよいのではないかな 小学校区単位で包括的な施設があるといい

## 各グループワークのまとめ

各グループでの意見を以下にまとめました。

### 1 グループ

メンバー：新井委員（川崎）、森脇委員（川崎）、小野委員（幸）、伊藤委員（中原）、  
関口委員（中原）、横山委員（高津）

#### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

##### ○提言だけではなく実践で成果をあげたこと（◎2枚、○1枚）

- ・ 提言のみではなく実践できたこと、防災のPR活動  
→人が集まる場所を活用して防災のブースを出す工夫がよい  
→フロンターレのサッカー教室でも開催
- ・ 提言を具体化できたこと。行動できる区民会議。エコシティたかつの活動、ふくシティたかつの活動  
→具体的には、エコシティたかつで在来種の保護活動、福祉をテーマにした多世代交流や障害者の交流イベントを実施した

##### ○提言だけではなく町内会の取組をPRできた！（◎1枚、○3枚）

- ・ 先進的な町内会の活動取材し、広報物として取りまとめてPR出来た
- ・ 地域の見守り活動の先進的な町内会を発掘し、事例として発表が出来たこと

##### ○様々な人々と出会えた

- ・ いろいろの人たちと知り合えたこと、防災がテーマでしたが避難所提言を知らない方が知っていただくことが出来た

##### ○様々な団体・活動を知れた！理解できた

- ・ 様々な団体との活動を知ることができた
- ・ 区内の団体活動が多くあることが理解できた

##### ○区民会議のメンバー自身が地域の活動を経験する機会をつくれた！（◎1枚）

- ・ 地域活動の実態を知らない区民会議メンバーを地域の防災活動に実際に連れていくことができた

#### ② 区民会議の課題を出し合おう

##### ○課題が区民と共有できない（◎1枚、○2枚）

- ・ 問題、課題が区民全体の共有となっていない

##### ○課題解決に向けた活動の継続が難しい（◎1枚、○1枚）

- ・ 提案事業のこれから、どう継続するのか
- ・ 子育て支援の充実、子ども育成支援団体の情報交換会の継続

→子育て支援活動を継続させていくために、活動のあり方について協議して、大師支所で活動支援を継続する方向で検討している

#### ○的確な課題設定が難しい（◎1枚、○1枚）

- ・ 課題設定や課題解決に向けた議論の時間が足りない
- ・ 課題設定の方法論が確立されていない

#### ○地域の生の声を把握する方策が弱い（○1枚）

- ・ 地域の生の声の課題をくみ取る方策が甘いのか？

#### ○提言だけだとそれが実践されず、言い放しになってしまう不安がある（○2枚）

- ・ 提言（テーマ）のチェックがなされていない、言い放しではないか。

#### ○会議出席者に知識の差がある

- ・ 会議に出席している方々の知識の差（課題について）が多く、時間に限りがあるのももったいないと思った
  - 知識の差があってもお互いの気づきもあるので良い面もある
  - 何について、誰が、どのように議論するのか、会議の目的の明確な設定により、効果的な協議をするとよい

#### ○30～40代の若い世代の参加が少ない

- ・ 年齢層のかたより、若い世代の参加が少ない
  - 忙しいのしょうがない面もある
  - インターネットを活用した広報なども必要

#### ○町内会とマンションとのつながりづくりはどこでも問題になっている（◎1枚、○3枚）

- マンションと自治会のつながりづくりが難しい、マンションから町会担当を出してもらおう工夫をした
- 大規模マンションと地域のつながりについては、そもそもマンションに自治会ができていないので難しい。管理組合はあるが、自治会はないことが多い。
- 高津区では、100世帯以上のマンションを大規模マンションと捉える

### ③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

（なし）

### ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか

#### ○自分でも力になれると感じられる活動テーマをわかりやすく示す

- ・ コミュニティづくり、いろいろな人材が参加する。
- ・ 障害をこえて、安全・安心のまち
  - 防災というテーマであれば、中学生が活躍できる
  - 組織への所属した人だけが地域活動に関われるという状況を変える必要がある

#### ○外国人も地域の一員として支え合うことが大切である

- ・ 日本人、外国人、共存の地域
- ・ 地域での交流が栄える。
- ・ 川崎区内の外国人住民との関わり方で、住民が差別なく関係が作れるようになってほしい！

○中学校区単位くらいで組織の壁を越える（イベントを入口として）  
→町内会とPTAのタイアップした組織の立ち上げ。

○定年後の人の得意ごとを引き出すしくみを！

- ・ リタイアした人を取り込み  
→60代が精力的に活動し、生きがいを感じるようにしたい。  
→地域活動へのハードルの低い入口をつくる  
→まずは地域での人間関係を楽しむ経験してもらう、友達をつくってもらうことが大切である  
→お手伝いできることのエントリーシステムがあるとよい  
→自分の趣味や好きなことが地域活動につなげるのがよい

○リアルなニーズをつかむ、実情を知るきっかけづくり！

- ・ IT化、webやスマホを有効活用下コミュニケーション。若い世代を取り込む。  
→若い人もつながっていたい  
→若者が得意で情報源となっているITをもっと活用する：メルマガ、防災アプリ等

○小さな不安を身近で気軽に相談できる場所づくり

- ・ 小さな不安を解決できる、窓口のあるコミュニティ  
→地域単位で憩える場をつくる

○地域の団体同士のつながりをつくるつなぎ役としての行政の役割を！

- ・ ひとつでも市政に区民会議の意見が反映してほしい。人の入りも出も市が窓口なので、窓口がもっと自治のことを考えて協力してほしい。

## ⑤まとめシート

○「自分も力になれる」と思える活動テーマを投げかける！

- できる限り多くの方に地域参加してもらう工夫として  
(ex. 防災・災害時⇒中学生)

○リアルなニーズや地域住民の実情を知る方法を工夫する。

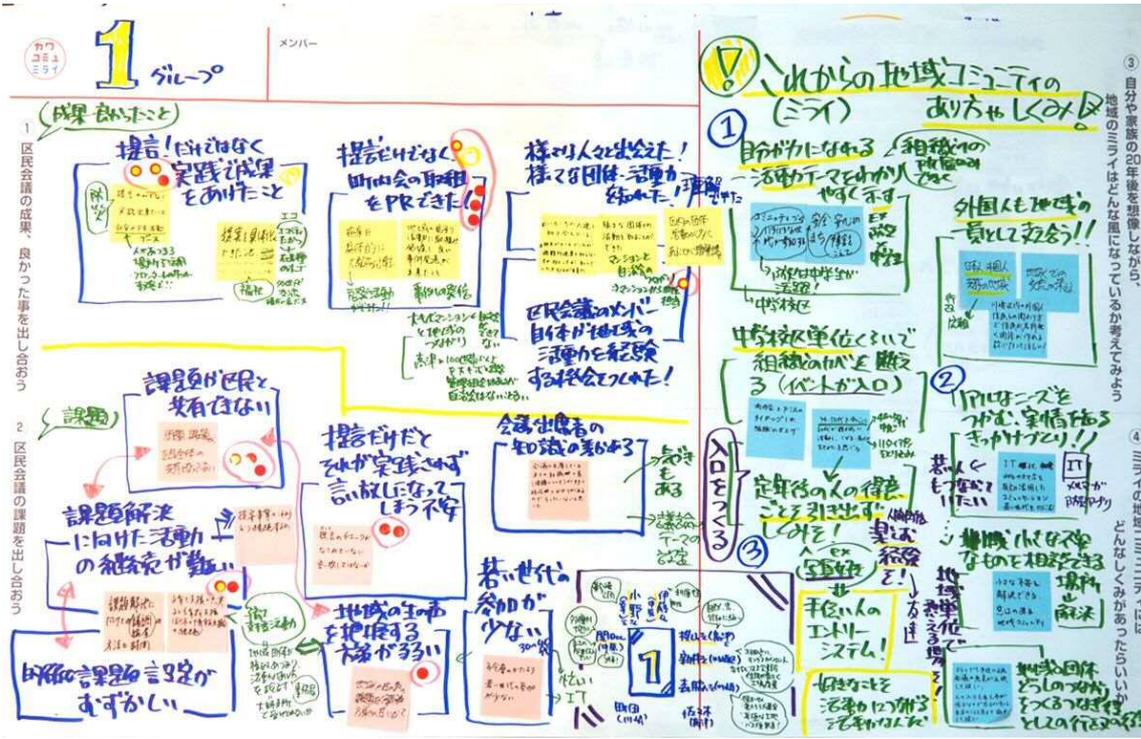
- 多くの参加を図る切り口やテーマを考えるために  
(ex. 若い世代のニーズ×インターネット)

○中学校区～小学校区くらいの小さな活動単位をつくる（≠組織単位）

- 顔がみえる範囲！

○自分の好きなこと・得意なことをすることが、地域の課題解決にもつながるという発想の転換を！！

- その入口をどうつくるかが大切



- ① 子どもが主体の方に地域参加してもらうために

「自分もかかわる」と思える活動テーマを探してみよう!

Ex 防災・学習時 → 中学生
- ② 多くの参加を目的に活動テーマを探してみよう。

1) 民間の力で! 地域の課題を解決!

Ex 若世代の力で! × ネット
- ③ まちづくりをする単位として...

中学校区 ~ 小学校区 くらいの 適切な単位を  
考える (≠ 組織単位)

Ex 顔がわかる範囲!
- ④ 自分の好きなこと、得意なことをやるのが  
地域の課題解決にもつながるという発想の転換

その人がどうやるかが大切

## 2 グループ

メンバー：岩瀬委員（川崎）、阿部委員（幸）、神谷委員（幸）、梅原委員（中原）、  
中森委員（中原）、櫻井委員（高津）、遠藤委員（高津）

### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

#### ○防災の対策や自助の取組を広げられた。（◎4枚）

- ・ 防災マップづくり、防災手帳、防災の自助について
- ・ お菓子も大事な防災グッズ
- ・ 自助（避難所への避難）への取組み
- ・ 避難所の実態を知らせてくれた。

#### ○子どもの地域参加を促せた。（○2枚）

- ・ 子どもが地域に積極的に参加できる様になった。
- ・ 中学生と一緒にプランターにお花を植え、地域40ヶ所に配布。
- ・ 子ども支援団体の交流ができた。

#### ○区の花を決定！広報した。

- ・ 40周年（川崎区）に向けて区の花（ひまわり・ビオラ）、区の木（長十郎梨・銀杏）を決め、広く区民に広報できた。

#### ○区の広域的な課題をみつめて解決できた。

- ・ それぞれの意識する課題を集約して課題を解決された。
- ・ 話し合ったテーマを取組むことができた。

#### ○区の魅力を再発見（○1枚）

- ・ 幸区の新たな魅力を発見できた。
- ・ 区の魅力を再確認できた。

#### ○区内の様々なプレイヤーと知り合えた。（○3枚）

- ・ 区内で色々な人が活躍していることがわかった。
- ・ 他地区、他組織の取組みを知る良い機会であった。
- ・ 区民会議のメンバーと一緒に活動しながら仲間が増えた。

#### ○行政の取り組みに市民として参画できた。

- ・ 区民の立場で行政に参加（疑似）できたところ。

#### ○障害者への理解が深まった。

- ・ 障害者に対して理解が少し進んだ。障害者に声をかけられる様になった。

#### ○安全に自転車に乗れるシールをつくった。

- ・ 安全に自転車に乗るためのシールを作った。

○まちをキレイにした。

- ・ 美化活動で街をきれいにした。

## ②区民会議の課題を出し合おう

○子育て世代や子どもの声が届きにくい。(◎1枚、○2枚)

- ・ 子どもや子育て世代の声が届きにくい。

○高齢者の生きがいを具体的に深めることが必要。(◎2枚、○1枚)

- ・ 高齢者の生きがいを具体的に深めたい。高齢者の気持ちが分かった。

○具体の成果を出し、効果を検証し、フィードバックするところまでやりたかった。(◎1枚、○2枚)

- ・ 成果を確認できなかった。予算がないので具体的ににならない。
- ・ 成果の展開&フィードバック。
- ・ 実際に区役所の課題として解決されたか?  
→PDCA サイクルを踏まえて一括してやりたい。

○予算が足りない。

- ・ 予算的に難しいところがあるのでは。

○期間が限定されている。引継ぎがない。(○2枚)

- ・ 期にとらわれず継続的に取組むことも必要。

○新人委員と継続している委員とのギャップ。

- ・ 継続している委員と新規委員とのギャップ。

○区との協働でもっとやりたかった。(○2枚)

- ・ 日々区民のために頑張っている行政と区民が課題解決に向けて一緒にやりたかった。

○任期が短く、タワーマンションの防災の結論出なかった。

- ・ 人口が増加で何かあった時の受け入れシステム。
- ・ タワーマンションの防災に結論出ず。

## ③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

(なし)

## ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか

○個人の自由、相手の自由を尊重したゆるやかな場づくり。

- ・ 自分の自由が大事なら他人の自由も尊重する。  
→入口をOPENにする。(外国人も増加している。呼びかけの仕方)

○高齢者から子どもまで多世代のコミュニティづくりが大切。

- ・ 高齢者が若者世代と仲良く暮らせる仕組みができると良い（コミュニティ作り）
- ・ 定期的に小学生が集団で老人ホームを訪問する。
- ・ 高齢者と幼・小・中学生が交流する。
- ・ 高齢者の技術を子どもに伝える仕組みを作る。
- ・ 世代交流。子どもと高齢者のふれあいの場。
- ・ 多世代が関わりやすい場を！
- ・ 子ども文化センターと老人いこいの家、一体となった家。

### ○高齢者の参加インセンティブ。

- ・ 定年退職者のボランティア参加にインセンティブ。

### ○中高生のボランティアに有用性のあるメリットをつける。

- ・ 中高生に単位をして「ボランティア」を課す。
  - 有利になるしかけ。
  - 1~2%が更に興味を持つ。
  - 多世代交流の場に行く。
  - 働く世代にもインセンティブ（有休休暇を上手に活用）
  - 企業とコラボ、清掃ボランティア

### ○テーマを絞った課題解決型プラットフォームをつくる。

- ・ 課題解決型プラットフォーム（住民・知識をもつ人、NPO）
  - 将来的にNPOになってもOK
  - START UPの支援

### ○子どもの個性を活かした地域参加を促す。

- ・ 子どもが主体的に意見できたり、意見が反映されるシステムづくり。
- ・ 教育力を高める為、土曜日月2回学校教育を行う。
  - 子どもの主体的な意見を反映（誰でもOK）

### ○教育行政と連携する。

- ・ 人ひとりが具体的な取組みの為の教育。

### ○支所とコミュニティ活動の場を統合する。

- ・ 大師支所を建て替えて、すべての人々の楽しい居場所に。

### ○防災の取組みを継続する。

- ・ 災害時に安心して暮らせる防災強化地域作りに着手。
- ・ 更に防災について意識を高める。

### ○介護の給料UP。

- ・ 介護者の給料を上げる。
- ・ 地域の生の声の課題をくみ取る方策が甘いかな？

### ○家族構成の変化を踏まえる

- ・ 家族制度を考える。核家族化をなくす。

## ○海風の森もっと楽しい遊び場にしたい。

- ・ 海風の森（公園）をもっともっと楽しい遊び場に！

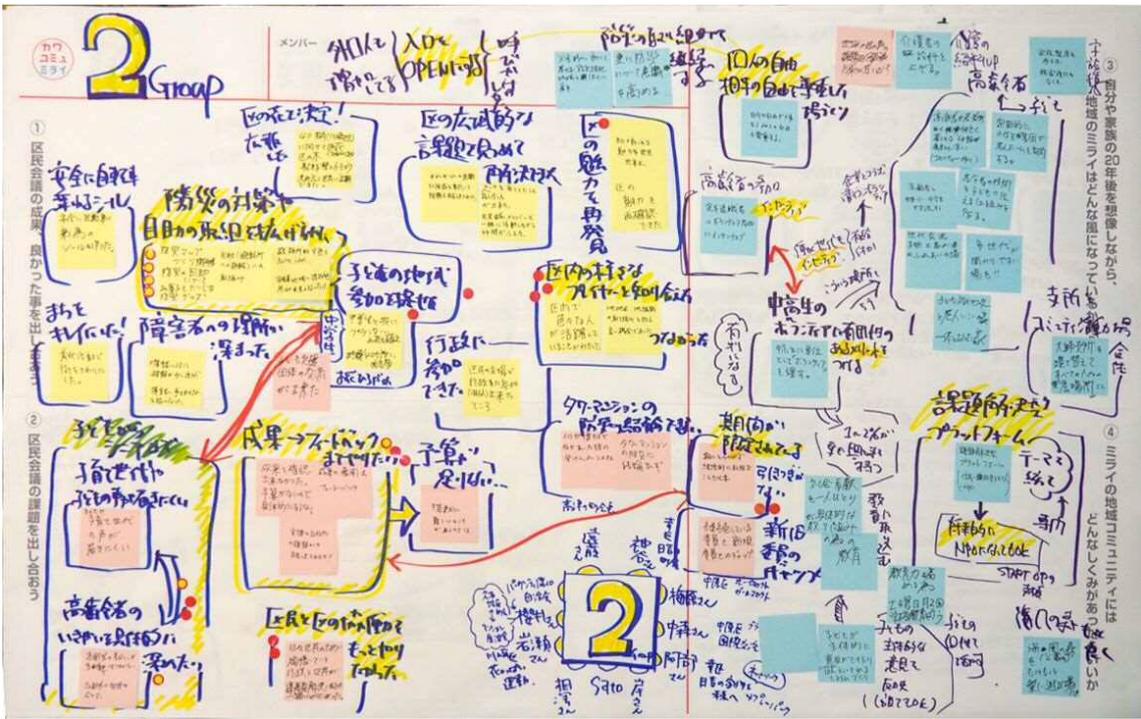
## ⑤まとめシート

- 子育て世代・子ども・高齢者など、多世代が交流できる場づくりが大切。  
→背景としてある子育て世代のニーズ、高齢者の増加などの課題をコミュニティの力で解決。

- テーマ限定で課題解決型のプラットフォームをつくる。  
→（ex. 防災）専門家を入れる  
→活動がNPOに発展してもOK（提案だけでなく実践までの実践）  
→START UPの支援  
→防災などのテーマは何十年経っても大切で、誰かがやらないとダメ。区民会議はテーマ広い。

- 働く世代・中高生・シニアが地域参加するインセンティブをつくろう。  
→【中高生】単位・強制でなく有利になる、子どもの主体性が上がる、自分のやりたい事と社会性をマッチさせるサポート。  
→【働く世代】企業とコラボ、有給消化、清掃、ボランティアに参加してもらう。

- 入口をオープンにして誰でも参加できるように呼びかけ力UP  
→外国人、タワーマンションの新住民の増加といった背景を踏まえる  
→個人や他人の自由を尊重したゆるやかな場づくりをしよう。



- ① 子育て世代・子世・高齢者 相互多世代が交流できる  
 (併せて) 場づくり大切
- 背景: 子育て世代のニーズ ↑, 高齢者が増える ↑ } コミュニケーション解決
- ② T-2限定で課題解決型のプラットフォームづくり  
 (ex. fire) } 提議だけじゃなく  
 ↳ 専門家を呼び出す... ⇒ NPOやNPO-like
- 防災 | 何を持ってこれるか } 区民参加, T-2 | START UPの支援
- ③ 働き世代・中高生・シニアが地域参加する仕組みづくり
- 中高生 | 単位・強制的に参加してほしいの主体が学校  
 自己決定して参加して下さる人
- 働き世代 | 企業とコラボ... 奉仕, 講座, 共有スペース参加してもらう
- ④ 入居者OPENにて誰か参加できない子世に呼びかけ  
 (知人, 知り合い, 新規)
- 自分や他人の自由を尊重する場づくり

### 3 グループ

メンバー：浦野委員（川崎）、成川委員（幸）、梶川委員（中原）、萩原委員（中原）、  
秋山委員（高津）、大野委員（高津）

#### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

○まちのことを知ることができた。（○・1枚）

- ・ 区のイベントや、施設、会合を色々を知ることができ、とても勉強になった。

○今までできなかった体験ができた。

- ・ 体験型プログラム等、今までに参加したことのない行事だったので、知ることができたのが良かった。

→フロンターレ+防災のイベント

○他団体とも連携した取組みができた。

- ・ 色々な立場の方とお知り合いになれ、意見交換できた。
- ・ 障害者施設の団体の方々の作った物を区役所1階で定期的に販売するに至ったことは成果だと思う。

○区民会議の構成団体が一緒に取組みを進められた。

- ・ きれいな街づくり。防災に強いユニバーサルな街づくり。行政と諸団体が一緒に取り組めたこと。

○行政との意見交換ができた。（◎・1枚、○・3枚）

- ・ 異なる立場の人及び行政のスタッフと率直な意見交換ができ、それなりの提言ができたこと。
- ・ 行政と情報共有ができた。共働ができた。  
→行政と一緒に実行する体制があった。

○具体的成果をあげられた！（◎・2枚）

- ・ 各町会で全員で防災マップ、防災手帳の作成を実現化した。

○区民が主体的に運営に取り組んだ

- ・ お金がなくてもできることに取り組んできた！

#### ② 区民会議の課題を出し合おう

○委員の選出のしくみは？メンバーが固定しがちだった。（○・4枚）

- ・ テーマに対して委員間に認識の温度差があり、議論がかみ合わず余分なエネルギーがかかることがあった。
- ・ テーマ設定→メンバリングというステップが有効。審議会的にはなってしまうが…。メンバリングは重要。
- ・ 目的意識を一つに絞り込むことの難しさ。委員同士の共通認識を得るまで時間がかかる。

- ・ 委員選出方法、テーマの選定。
- ・ やる気のある人、出られる人が委員になっては。  
→テーマを選ぶのが大変  
→他区と共通のテーマで取組むことも考えられる？

### ○運営が行政主導だった区もある。もっと市民を信じて運営を。

- ・ 行政の主導になりがち、予算がない、実行しなくていいなどと言われると、実行できることが限られてしまう。
- ・ 「予算がない」という言葉がプレッシャーだった。

### ○「実行」に移すしくみが必要！（◎・2、○・1）

- ・ 提言が実行に移せる仕掛けがなく、あとは行政に委ねるだけ…が問題。実行レベルまで担保できる仕組みが不可欠。
- ・ 調査だけでなく、実行していくしくみが必要！
- ・ ご意見版ではない！

### ○欠席があり、日程調整も大変

- ・ 出席する委員の方々の日程調整に事務局が毎回苦労されていた。それでも欠席が出る。

### ○認知度が低い（○・1枚）

- ・ 地域に区民会議が浸透していない。
- ・ 区民会議の認知度が低い。
- ・ 活動の広報がまだまだ足りない。
- ・ 行政以外の手段でもっと知らせる方法を工夫できるかも。  
→活動の結果が出て、成果を伝えることで、認知度もアップできる

## ③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

### ○こんなミライになっていそう…

- ・ 純区民が少ない街。
- ・ 一部の住民（アパート）が増えていく…。
- ・ 愛着の薄い人が多くなっているかも…。
- ・ 本当の意味のコミュニケーション能力が乏しくなるのではないかと思う。
- ・ 川崎区は、インバウンド（外国から来る人）増加する。
- ・ 今がすごく変わったところなので今後はどう変わるか楽しみでもある。高層住宅はどんなふうになるか。心配もある。

### ○こんなミライになりたい！理想

- ・ 子育て中の方々と高齢者の方々とふれあいを通して明るい地域へ。若い力の発掘につながる。
- ・ 子育て世代と高齢者世代の交流、共存共栄が常態化し、日本のモデル地区となって

いる。あえて「ありがたい姿」！

- ・ 助け合って温かいい街になっていると思う。

#### ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらよいか

##### ○「行政」との連携のカタチ

→情報が大切

→人材も大切

- ・ 町会の活動に、住民である行政の現役の人に、仕事として参加してもらう。

##### ○担い手を明確化して実行にうつす。

- ・ 町会との連携で活動することが基本。
- ・ 活動団体との連携が大切。
- ・ 子育てグループ（若い世代）との連携が大切。
- ・ 現実的に、働き盛りの人は参加が難しいのでは。
- ・ 進んで活動する人が少ない。

##### ○「やりたい人」を発掘（みんなに期待するのは無理）

- ・ 現役世代の中の少数かも知れないが、やりたい人を発掘する。  
→若い人の活動しやすい時間  
→仲間づくりができる

##### ○若い人にも参加できる活動の条件は…

- ～あまり拘束されない。
- ～おもしろい。
- ～自分の利益になる。

- ・ 例えば「防災」がテーマなら、若い家族も地域参加のきっかけになりそう。
- ・ マンションの活動は若い人も役を担っている（活動場所が近く、自分の直接の利益だから）。

#### ⑤まとめシート

##### ○少数でも「やりたい人」を発掘する。

→現役世代に参加してほしいが、多くの人に期待するのは無理。

##### ○コミュニティの担い手は、町会、活動団体、若い世代のいる子育てグループとの連携が実行の力になる。

##### ○「防災」をテーマにすると若い世代も地域に関わるきっかけができる。

→おもしろい、あまり拘束されない、自分の利益になる…

##### ○町会の活動に現役の市職員が《ちょっと仕事》として参加・応援してくれるといいナ！



## 4 グループ

メンバー：原委員（川崎）、伊藤委員（幸）、松井委員（幸）、鈴木委員（中原）、橋本委員（中原）、須見委員（高津）

### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

#### ○若手の意見も聞けた！！

- ・ 幸区の魅力を再発見するため、子・親を身近に持つ 30～40 代を対象にアンケートを実施し成果を得た。  
→アンケートで若手の意見も聞けた。

#### ○区の情報入手、良い所を発見！！

- ・ 幸区の情報を知る機会になった。
- ・ 幸区の良い所の発掘は一応できたと思う。これからの課題に向けての活動に期待したい。

#### ○多くの団体や人と知り合いに！！

- ・ 多くの団体の人たちと交流を図りつつ、意見交換することにより課題を見つけ解決に取り組めた。
- ・ 地域で活動されている様々な団体の方、思いを持っている区民の方と知り合える良い機会。
- ・ 地域に色々な活動をしている人がいることを知ることができた。

#### ○2年継続することで形にできた。

- ・ （任期が2年だったので）テーマを2年継続で検討していくことになり、中原区としての課題解決に向けて、少しではあるが形になってきている所。

#### ○アクションにつなげようという姿勢が実った。

- ・ 成果をアクションとして実行しようという姿勢を持っていた。

#### ○区の施策になった。

- ・ 外国人市民と共に考える防災フォーラムが区民会議から生まれ、区の施策になった。

#### ○生活の視点で話すことができた。

- ・ 高齢者支援、子ども支援、外国人支援、多様な視点から課題の取組みを行った。  
→生活者の視点で課題に取り組めた。
- ・ 区民の生活が、縦割行政を横のつながりにして向上してもらいたい。  
→行政の縦割を（区民会議のような組織で）横につなげたい。

### ②区民会議の課題を出し合おう

#### ○年齢構成のバランスが悪い（◎3枚、○2枚）

- ・ もう少し子育て世代にも参加して頂けるようにならないか。
- ・ 年齢構成がうまくいかない点。もっと広い世代のメンバーも一緒に意見交換など必

要。

- ・ 若い人の参加がなかった。  
→時間など参加できる工夫を

#### ○扱う課題もかたよりがち

- ・ 偏った年齢構成の為問題の取り上げ方も偏るのだと思う。

#### ○きれいにまとめられてしまう！（◎1枚、○3枚）

- ・ 魅力の発掘の欠点の追求が十分議論できなかった。（その結果、きれいにまとめられてしまう傾向にあった）

#### ○施策に結びつきにくい（◎2枚、○1枚）

- ・ 行政が縦割組織の中で住民目線からの生活課題を行政施策に結びつけること（が、難しかった）。

#### ○認知度が低い（○3枚）

- ・ 認知度が低い。

#### ○会議のポジションは？

- ・ 取組む課題の範囲が広く、ポジションがわかりにくかった。  
→どの範囲？何を求められている？

#### ○同じような内容になりがち（○2枚）

- ・ （推薦枠の）選出母体からのテーマ出しが毎年同じ様な内容となった。  
→毎回、選出母体の課題をかかえてくるので。

### ③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

#### ○直接ふれあえるまち

- ・ 他人の気持ち・心に優しく接せられるドウトクシンあふれる社会になってほしい。

#### ○多世代・近隣のつながりあり

- ・ 向こう三軒両隣のな川崎になっていたらいいな。  
・ 高齢者も幼児も「集会所（コミュニティ）」に集まって楽しく過ごしている。

#### ○若い人が増える！

- ・ 若い人たちが増えて、高齢者の方との間にみぞができそうで少し心配。  
→みぞをうめる。

#### ○少子高齢化している！

- ・ 川崎区は少子高齢化が大きな課題。多様な人々が住みやすい街づくりが必要！！  
→みぞをうめる。

#### ○外国人がたくさんいる！

- ・ 外国人の人がたくさん身近にいる多様化した社会。  
→みぞをうめる

## ○情報活用で安全に！

- ・ 防火、防災、防犯にきめ細かい情報提供画できる地域になっていると思う。

## ○10年後どうなる？

- ・ ワンルームの課題。
- ・ 二世帯で住めない。
- ・ マンションが増える。←縦にのびると交流できない。
- ・ ビル風すごい。
- ・ 自治会組織。

## ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか

### ○参加できる場づくり

- ・ どこでも語られてきた「多世代交流」参加できる場づくりとしかけ。

### ○最近地域に…「つながり」ってなんだろう。

#### ○「強制的に知る」

- 自分のことでいっぱい、いっぱい。
- 最終的には個人意思でも知る機会を。
- 参加してほしいだけでなく（小さな1歩が大事）。
- 自分が困って初めて参加に。
- 体験する機会を。

#### ○「子ども達に機会を！」

#### ○横浜市の例

- ・ 会合も、子育てサロン、外国人のサロンも同じ所でやっている。

#### ○町内会、まちづくり活動、PTA 他いろいろ

- ・ 各団体を横串となる組織があれば…。
- ・ PTAの“動員”（強制）は実はきっかけとなっている。
- ・ 体験する機会を。権利なんだよ！
- ・ 独立しない仕組み。
- ・ つながりに100点も0点もないよ！

#### ○くぐりの言葉

- ・ 若い人にもっと来てもらえると意見も反映できるのでは？
- ・ アンケートやりすぎ！！（分析はするけど）
- ・ 若い人の余裕がないと思いながら…若い人もサロンをしている。
- ・ 違う視点で動き始めた新しい人も入れる“枠をつくる”

## ⑤まとめシート

### ○まちづくりを体験するキカイを強制的に得られる仕組

- でも“権利”でもあります。

### ○みんなが同じ場で活動できる仕組

- 町内会自治会の会合も、まちづくり活動も、PTA も子育てサロンも、外国人サロンも。

- まちづくりの横串になる組織を！  
→各団体を横串にできるような仕組み。
- 積極的に参加してもらえようような声かけができるような仕組み  
→新しい視点を持つ新しいまちづくり団体や人を。
- “つながり”に100点も0点もない！！みんながそう思っているコミュニティに！！



## 5 グループ

メンバー：青柳委員（宮前）、影山委員（宮前）、藤原委員（多摩）、山吉委員（多摩）、海崎委員（麻生）、高橋委員（麻生）

### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

#### ○地域の魅力を知れた（視野が広がった）。

- ・ 宮前はこれから先も楽しめる気持ちが活動を通して知った。
- ・ 色々な組織の方と意見交換し、視野が広がった。

#### ○各地区の団体と知り合いになれた（他の団体を知らない人多い）（○1枚）

- ・ 各地区での団体の人々と知り合えたこと。
- ・ 各団体から推薦された人の中で、他の団体がどんな役目を果たしているか知らない人が多かった。

#### ○熱心な議論できた。

- ・ 参加団体、メンバーとの意見交換ができた。

#### ○地域コミュニティの課題が見つかった。

- ・ 地域の様子を会議で知ることができた。委員と課題を見つけて活動することができた。
- ・ コミュニティの課題が明確になった。少子化→生産人口の減少。コミュニティの劣化。  
→データなどから少子高齢化など  
→生産人口の減少、コミュニティ劣化

#### ○具体的イベントにつながった。

- ・ 市民活動、絆部会で今期キックオフイベントして、2/3（明日）市民活動の紹介テーマ親子で体感してみませんか（麻生区の地域活動を知ろう）。つながろう、楽しもう～（小学1・2年生と親を対象）
- ・ それなりの output は得られたか。
- ・ 市民活動→ボランティア活動をドライブ。
- ・ 「麻生区区民会議フォーラム」の開催（2/3）

#### ○若い活動している人の話を聞き、エネルギーに驚き、課題にも気づいた。

- ・ ボランティア活動している人、若い人の生の考えが聴けた。今のインフラの問題を指摘された。（ex.公園の清掃活動等）  
→まず区民会議の魅力UPし、周りの人に知ってもらうことが必要。  
→一緒に活動するなど、単に課題の指摘ではなく、地域に活動が展開するまでのプロセスを描くことが大切だと気づいた（○1枚）

## ②区民会議の課題を出し合おう

### ○コミュニティづくりにつながる観点が重要（○3枚）

- ・ コミュニティ作りの観点が向けていた感じがある。

### ○一般論多かった。近所の助け合いなど、身近なテーマを取り上げることが必要（○1枚）

- ・ 身近なテーマの発掘。
- ・ 近所の助け合い。

### ○公園環境の維持活用など、住みやすいまちづくりに向けた課題を取り上げるべき（○1枚）

- ・ 街区公園の維持活用。
- ・ 若い人が住みたいと思うまちづくり。

### ○若い人がもっと多く関わる必要がある。

- ・ 年寄りと若い人達では、考え方で多くの違いが感じられた。若い人がもっと関わってほしい。

### ○地域を知らない人多く、課題の設定までに時間がかかった。（○1枚）

- ・ 区民会議の委員の構成（各団体から1名、公募若干、20名の構成であるが）地域を知らない委員さんが多く、課題の決定について2年間のうち1年半かかり、後半でようやく決まり、イベントにつながった。  
→なかなか意見がまとまらない。

### ○区民会議を知らない人多い。

- ・ 市民がこの区民会議自体を知る人が少ないのではないか（PR不足）

### ○区民の意見を吸い上げることが大切。

- ・ 本当の区民の意見を吸い上げているかが課題だ。  
→区民の意見を吸い上げるアンケートなどが有効（区民祭など）（○1枚）

### ○区民会議の限界か？解決策がない

- ・ 問題を提起してもそのままになってしまうものがあり、任期に問題あり？  
→任期が2年ということも原因かもしれない

### ○区内をしっかりと見ている区役所の意見（窓口の人など）を聞いて議論すべき。

- ・ 行政（麻生区役所）と話す機会が増え、行政の方向・考え方が少し理解できた。

## ③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

### ○地域包括ケアシステム完成！（◎1枚、○2枚）

- ・ 地域包括ケアシステムの完成したまち。

### ○子どもたちがたくさん遊んでいるまち。（◎1枚）

- ・ 子どもたちが沢山遊んでいる“まち”  
→子どもも認知症の勉強  
→子どもが見守り

#### ○多世代が交流できる場所のある暮らしやすい地域づくり

- ・ 公園等公的な場所を、多世代に渡る交流の場とするアイデア。
- ・ 暮らしやすい地域づくり。
- ・ 子どもたちが地域の見守りする安全な仕組。  
→公園などの既存施設の活用。

#### ○持続可能なまちづくりが必要。

#### ○医療・介護などの発展もあるだろう。

- ・ 「地域包括ケアシステム」がようやく地につき、認知症・ガン対策・少子高齢化の中で、小中高生は学校の「人権擁護週間」の授業で「地域包括センター」の職員の方が「認知症を知ろう」の授業を開催して、地域の優しいまちづくりに貢献してくれている。
- ・ 65歳以上の核家族化が進んでいる。防災に対しても、中学生が地域に参加してくれ、若い力を感じている。昨日、川崎の殿町のイノベーションによる体内病院の実現を聞いた。地域は認知症も治り、国民のガンの不安から開放され、健康で100歳を維持し、少子高齢化が解決して明るい地域コミュニケーションが息づいている。

#### ○高齢者のみの世帯増えている。

#### ○互助の観点でみんなが連携し、コミュニティが生き生きしている (◎3枚)

- ・ 互助の観点での各組織が有機的に連携され、コミュニティが生き生きしている姿。

#### ○コミュニティバスが充実している

- ・ 高齢者が増加している。その対策は見えてこない。コミュニティバスの運行。

#### ○地域の代表は自分たちで選ぶ時代になっている。(◎1枚)

- ・ 町会長の公選化。自分達の街は自分達で代表を選ぶ。
- ・ 女性の町会長登場
- ・ 町会、役員選挙公選化と連動。

#### ○空き家情報の把握と住みやすい地域のサポート

- ・ 空き家が増えている。一人暮らしの方の情報の取り方を考えたら。  
→空き家を活用し、ファミリーが地域に住みやすいサポート  
→住みたい地域、住むことのできる地域であることが大切

### ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか ／まとめシート

#### ○互助でコミュニティの活性化

- 多世代コミュニティ
- 空き家の活用や用途地域の見直しにより多様性のある地域の実現
- 隣近所のちょっとおせっかいできる関係を構築（雪かきもきっかけになる）

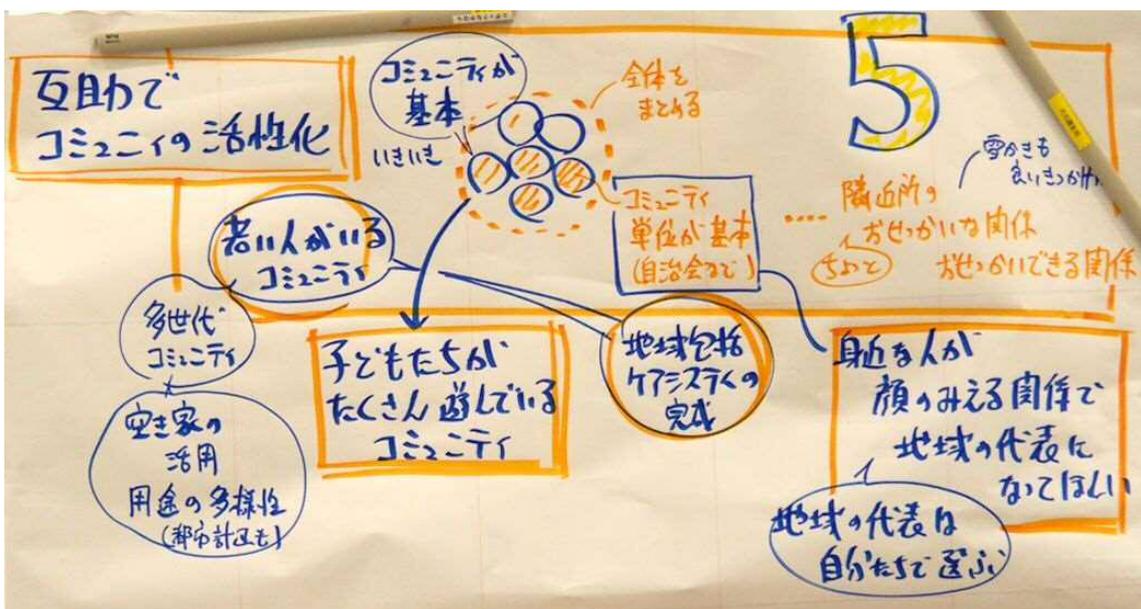
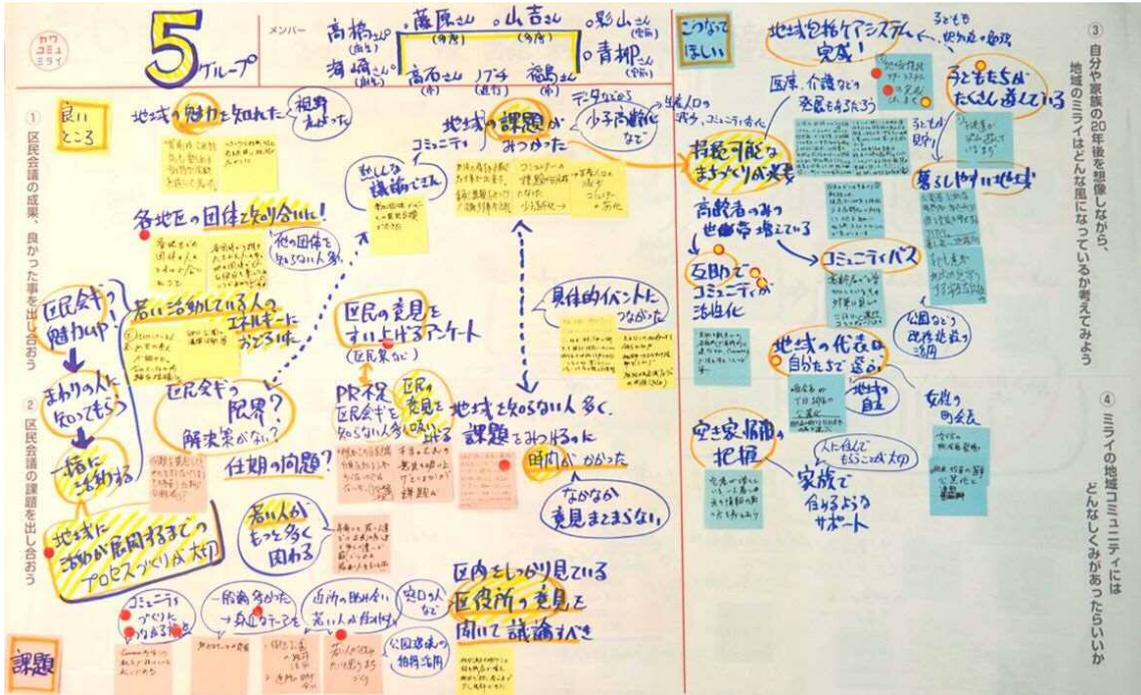
→自治会などのコミュニティ単位を基本とし、全体をまとめるシステムもあると良い

○子どもたちがたくさん遊んでいる多様性のあるコミュニティの実現

- 若い人がいるコミュニティの実現
- 地域包括ケアシステムを完成させる

○身近な人が顔の見える関係で地域の代表になってほしい

→町会長など、地域の代表は自分たちで選ぶようになると良い。



## 6 グループ

メンバー：荒川委員（宮前）、山部委員（宮前）、杉下委員（多摩）、本多委員（多摩）、高倉委員（麻生）、林委員（麻生）

### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

○多くの人と交流ができた。（○2枚）

- ・ 知り合いが増えた。
- ・ 多くの人と交流できた。

○地域の中に様々なネットワークができた。

- ・ ネットワーク：団体選出もあり、情報交換が進み共に考える。

○様々な分野の人が集まり、集約した知識での議論ができた。（○1枚）

- ・ 各分野、思いのある人が集まり、協働による地域課題解決に取り組む。
- ・ 多くの人に会い、色々な知識を得たこと。  
→行政の人の考え方や、区内の様々な事柄を知ることができた！  
→区役所がどういった場所であるかを知ることができた！

○地域の中にある多くの問題・課題等を知ることができた。

- ・ 成果ではないが、多くの問題を発見できたこと。  
→区民会議は課題発見の場として機能する。（○1枚）
- ・ 区のことを色々知ることができた。

○区民会議で提言したことを、まちづくり協議会で実行した。（○1枚）

- ・ 提言したことが実行できたこと。多摩区まちづくり協議会に多摩エコスタイルプロジェクトとして、環境に関し啓蒙活動を続けている。
- ・ 提言の一つを実行できた。地域包括ケアシステムのやさしいチラシづくり。

○交通費が出ることで、責任ある発言につながった。

- ・ 交通費が出ること。→責任が出てくる。  
→報酬は責任につながる！

### ② 区民会議の課題を出し合おう

○委員になって「区民会議とは何か」を理解するまでに時間がかかる。（◎1枚、○1枚）

- ・ 委員の任期の問題あり。前半が「区民会議とは？」になってしまう。
- ・ まち協との違いがやや不明確（に思う委員が多かった）

○委員に若い世代が少ない。

- ・ 委員の選定、若い世代の委員が少ない。
- ・ 若い人は時間がない。

→若い人は仕事の後しか参加できない場合が多く、時間が合わない。

○区民会議で取り上げるテーマと、委員の興味が合致しない場合がある。

- ・ テーマの選定  
→小さなテーマを取り扱えば、実行に繋がられるかもしれない  
→区民会議とまち協「一体的」

○自身の課題も取組む必要あり。(○1枚)

- ・ 課題を抽出。期を重ねてこれまでの提言にこだわってしまう。

○団体推薦の委員の中には充て職のような人もおり、課題意識やテーマを持っていない場合が多い。

- ・ 推薦メンバーが多い。充て職として参加されているメンバーには仕方なしに出席していると見受けられる。
- ・ 利益代表っぽい。区全体を視ること（興味の有無にかかわらず）ができない。  
→公募の委員が少ない。(○2枚)  
→地域課題に対する視野が狭い。

○提言をどう具現化するのか、行政でどう実行するのが不透明である。(◎4枚、○1枚)

- ・ 提言したことがどのように実施されているのかわからない。
- ・ 課題の解決方法の具体が実現可能なのか不明。
- ・ 実行、又は行動を起こす。
- ・ 提言の具現化。  
→実行されているか不透明。

○多世代との交流や地域の溜まり場など、地域の人がつながる環境づくりが必要。

- ・ 多世代との交流で互いの立場がわかりあえる地域づくり。
- ・ 地域のたまり場をつくる。

③自分の家族の20年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

○少子高齢化が進んでいる。

- ・ 少子高齢化が進む（介護の必要なシニアが増える）
- ・ 人生100歳、老人化対策
- ・ 超高齢化の課題続出
- ・ 介護のあり方

○元気な高齢者が活発に活動している。

- ・ 元気な老人が活発に活動している（様な気がする）

○高齢者と子どもの交流が盛んになっている。

- ・ 高齢者と子どもたちの交流が盛んになっている。

○地域の中に空き家が増えている。

- ・ 空き家が増えている。
- ・ コミュニティの場所、確保  
→コミュニティ活動を実行する場として空き家を提供できるとよい

○交流を意図するような場が増えている。

- ・ コミュニティカフェ：会って話そう。意図的に交流の場を。
- ・ 笑顔と助け合いによるコミュニティ形成できている。

○SNS の普及で地域の人たちと顔を合わせることが今以上に減っている。

- ・ face to face コミュニケーションが希薄になる。

○IT を活用して地域のつながりを生み出す！

- ・ IT でつながるまちづくり。

○AI が普及することで、人と話す機会が減っている。

- ・ まち中の多くの機能がロボット化している（だろう）

○地域でプロボノ活動が広がっている。

- ・ プロボノでスキルを広げる世代が頑張っている。

○有償ボランティアが普及している。

- ・ ボランティアをすることで生活ができる。

○地域で子育てを担う環境が整っている。

- ・ 地域で子育て。  
→少なくなる生産年齢を地域でフォローする。

○人口構成は変わらないかもしれない。

- ・ 大学が存在する限り、年代別人口構成は変わらない。活気がないまま。

○テーマを持った生き方が広がる。

- ・ テーマを持った生き方の推薦。市民活動が活発。

#### ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか

○小さな単位での課題解決を充実させる！

- 小学校区くらいの単位が良い
- 身近で分かりやすいコーディネート機能が欲しい

- ・ 町内会単位での課題解決が必要である。
- ・ 多様な市民活動を支援する。→身近な地域にコーディネート機能。
- ・ 遠い身内より近くの仲間づくり。

○傾聴し合える「場」が充実！

- ・ 傾聴し合える場所がある。  
→場のコーディネートができる人が必要

→「自分の居場所」であると思ってもらうことが重要

○提言の実行を一般に公募する

- ・ 提言を実行する活動団体を公募する。(活動予算は支給する)

○空き家を町内会／自治会で活用できる仕組み

- ・ 会館のない町内会・自治会に空き家の活用ができるような条例をつくる。

○観光＋美味探訪

- ・ 観光＋美味探訪、多摩区を巡るサイクリングロード、少しスケールアップしたプランを提供したい。

⑤まとめシート

○小さな単位での課題解決を充実させる為の分かりやすい「コーディネート機能」をつくろう！

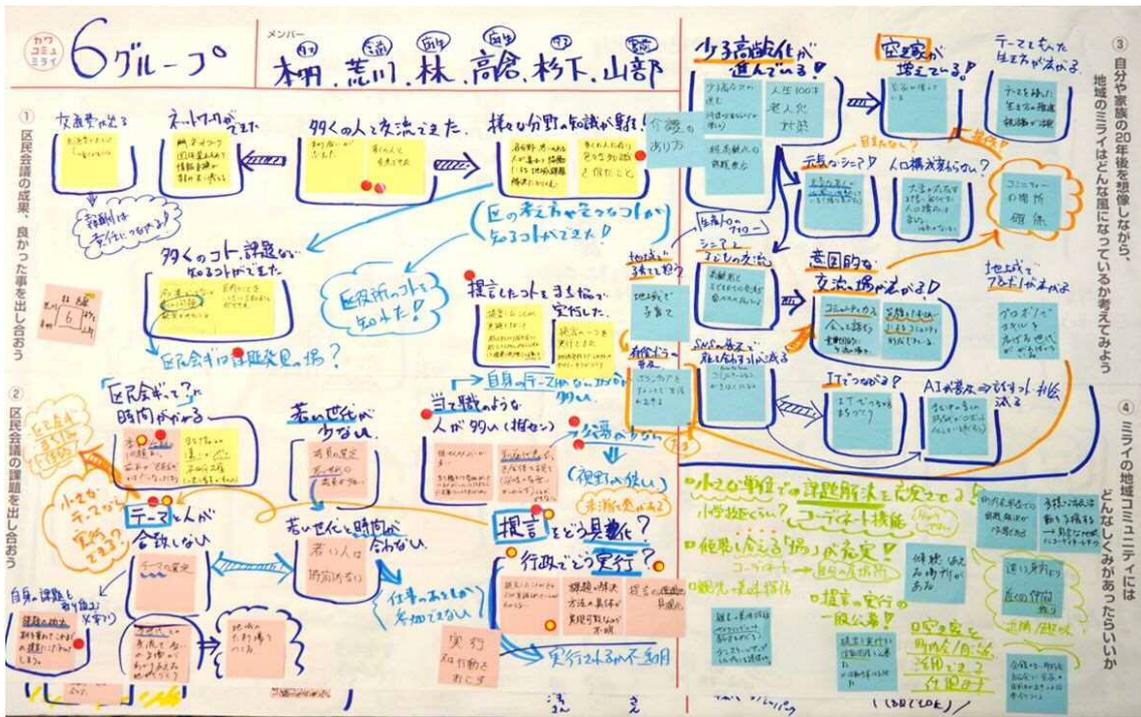
○地域の中で気軽に悩みや相談事を話し合える、傾聴し合える「場」を充実させる！

→悩み＝活動のことから生活のことまで

○区民会議で出された「提言」の解決を一般公募！（予算付き）

○町内会／自治会による空き家活用の仕組みづくり！

○地域の観光＋美味探訪！



- 6グループ
- ① 小さな単位での課題解決を現実にするの  
分りやすい「コーディネート機能」をつくろう!
  - ② 地域の中で気軽に悩みや相談ごとを話し合える  
傾聴し合える「場」を充実させよう!
  - ③ 区民会から出された「提言」の一般公募!  
(解決を) 準備中
  - ④ 町内会/自治会におき空家活用の仕組み  
つくりだそう!
  - ⑤ 地域の観光+美味探訪!

## 7グループ

メンバー：佐藤委員（宮前）、中村委員（宮前）、矢野委員（多摩）、橋本委員（麻生）、  
松田委員（麻生）

### ① 区民会議の成果、良かったことを出し合おう

○地域に関わるたくさんの仲間ができ、地域活動のつながりづくりができた  
（◎2枚、○3枚）

- ・メンバーと面識が持てたこと。
- ・地区会館長さんからの困り事に対して少し役に立ったかなあ…と思います。区民会議の広報に載ったことで、相談されることが多くなりました。  
→相談が増えた。
- ・部会の取組で、地域のクリエイターさんたちや知識・技術を持つ人たちとつながりを持てました。  
→地域クリエイターとネットワークづくりができた
- ・所属する委員の活動を見聞できたことは、今後の人とのつながりに活かせる。  
→区民会議に入って地域の人の知り合いが増えた。

○参加前は知らなかった地元の活動に目が向き、詳しくなった

- ・《住む人のふるさとづくり》無関心だった区の動向に対し、身近な地域づくりを考えるきっかけになった。
- ・地元を知るきっかけになった。
- ・活動参加による仲間づくり、絆づくり、地域づくりを考えることができた。地域の活動に目を向けることが大。  
→地域づくりを考えるようになった。（仕事中はできなかった）  
→住んでいる地域を“ふるさと”と思えるようになった。  
→地域を大切に思う人が増えた。（地域への思いを共有する場）  
→地域をよくする仲間・ネットワークができた。（多世代で刺激を受ける）

### ② 区民会議の課題を出し合おう

○提言した後にどうなったのかわからない（○2枚）

- ・提言のその後のフォロー状況が見えない。  
→提言のレベルが様々？  
→実践する人は？

○子育て中の人が集える「居場所」がもっと必要（◎2枚）

- ・高齢化の進行する中で、子育て中の若い人たちが共に集える「居場所」づくり。空室利用などを活用して。

○課題設定が難しく、時間がかかるので行政から「こういうことを考えてほしい」提案があってもよい（○1枚）

- ・課題設定に行政の問題意識を出してほしい。
- ・区民会議に相応しい課題設定が難しい。

- ・ 有効な提言を出すのが難しい。  
→《市民×行政》区民会議にちょうどいい課題とは？→設定に半年かかるところが課題。

#### ○建設的な会議の運営、議論の進め方が難しい

- ・ 楽しい議論が難しい場面がある。  
→もっと建設的な議論の進め方をしたい。

#### ○区民会議がなくなった後に、どう区民の意見を行政につなげていくかが課題

- ・ 今期で終了なので、区民の意見を行政につなげる方法を今後どうするか。

#### ○高齢化社会どう対応するかが大きな課題である（○1枚）

- ・ 委員の意見がまちまちで、まとめることと、山・坂・町がこれから高齢社会に向かってどのように対応されるかが問題。

#### ○若い人がボランティア活動に参加してくれない（○1枚）

- ・ ボランティア活動に若い人が目を向けてくれる方法。共同参加。  
→子育てフェスタのミニ版を区民会議でやる。

#### ○川崎市は横移動が大変（◎1枚、○1枚）

- ・ 麻生区は横浜川崎に交通便の悪さ、政治的になるか？  
→アイデアなど

#### ○これからの地域づくりでは外国人との関わりも考える必要がある（○1枚）

- ・ 麻生区には約 2000 人の外国人が生活しているとのこと。その人たちの生活が豊かになるつながりを考える。  
→宮前区では公務員宿舎になる予定だったところが震災避難者の受け入れ施設になった。

### ③自分の家族の 20 年後を想像しながら、地域のミライはどんな風になっているか考えてみよう

#### ○介護ロボットや外国人労働者が増えて人手不足が解消している

- ・ 担い手が不足している中、介護ロボット等の開発が進んで IT による生活が盛んになると良い。
- ・ 人口が少なくなるにあたり、すべてロボットとか外国人が多くなることと思います。  
→外国人が増えそう。

#### ○技術の発達により、仕事がなくなるのではないか

- ・ 子どもたちのことを考えると不安がつのります。仕事とかあるのか？

#### ○単なるベッドタウンではなく、活気のある地域、「ふるさと」と思ってもらえるまちになっているとよい

- ・ せっかく人口が多いので、単なるベッドタウンではない、活気ある地域として続いていってほしいです。

#### ○中高大生が地域を支えるシステム・体制ができているとよい

- ・ 中高大生が地域活動に参加できるシムテムづくりができて、若者が生き生き地域を支えるまちになっている。

#### ○地域活動に使う予算が増えているとよい

- ・ 地域の活動により多くの予算を使う。

#### ○親子で遊べる場が増えているとよい

- ・ 子どもも大人も元気で安心安全、地域の中で親子で遊べる場づくり、支え合えるよう援助。

#### ○区役所と地域の人との一体感 UP しているとよい

- ・ 区役所と地元団体が一体となって地域活動をしている姿が見える。

#### ○ボランティアが増えるとよい

- ・ ボランティア、地域活動に参加する区民が多くなる。

#### ○町会・自治会がもっとオープンになって、区民会議などと一緒に地域に関わっているとよい

- ・ 町会、自治会と地域団体が協調して活動している（とよいな）。

#### ○地域のお店・商店街が減っているのではないかと心配

- ・ 商店街、地域のお店が減っているのが気になります…。住宅だけになるのは困るなど。

#### ○個人の趣味を地域の人のために活かせるとよい

- ・ 個人の趣味活動を、人のため地域のために活かす人が増加し、助け合いの地域に！

### ④ミライのコミュニティにはどんなしくみがあったらいいか

#### ○もう自己犠牲で地域活動は担っていけないのではないかと。有償で、スキルや趣味などを活かせることが重要

- 中高大生が地域を支える体制？
- 個人の趣味が「地域のため」につながる。
- 有償ボランティア、謝礼。

#### ○町会や商店会など、従来の組織だけでは地域を活発にできない。地域に関わる活動をしている団体、町会、自治会、行政が一体感を持って活動できる仕組みができるとよい

- 新しい受け皿がない（町会・商店会に代わる）
- すでにある団体をまずはつなげる。

#### ○地域にコーディネーター、ファシリテーターが必要。地域の人々の専門性を活かし、プライド、やりがいを持ってもらいながら活動できる体制づくりが必要

- 「赤ちゃん訪問事業」では、決められた通りにしか活動できないため専門性が発揮できず、プライドや誇りを持って活動できない。
- 市民館のスタッフが替わり、専門性や地域への密着度が小さくなったため、市民の活動の幅も狭まっているように感じる。

- 社会福祉協議会が地域を引っばるとよいのではないか
- 市民館など地域を担う包括的な施設が小さな単位で設置されているとよい
  - こ文といこいの家を地域の包括的な拠点となる場所にするとよいのではないか。
  - 小学校区単位で包括的な施設があるといい。
- かつては地元の商店や企業が地域に貢献し、住民もその商店等を応援するというよい循環があった
  - 地域の人が利用する布団屋さんが繁盛している。「半ザム」。地域貢献しており、地元の人もそこで買い物をしている。
- かつては、地域の名士だった病院や寺の親族などが民生委員をしていたので、持っている人脈やスキルで課題解決ができた。そのような人が少なくなったことで、民生委員という役職が機能しなくなっているのではないか
  - 地域の駆け込み寺
  - 地域の名士である病院、寺の人が民生委員で、プライドがあった
- 専門性を持つ組織や人が自治会や町内会などの地縁組織、地域をよく知る人などと有機的につながるとよい
  - ヨコ：自治会・町会
  - タテ：専門性のある市民団体・ボランティア（やりたいところだけやればいい）

## ⑤まとめシート

- もう自己犠牲で地域活動は担っていけないのではないか。有償で、スキルや趣味などを活かせることが重要
  - 中高大生が地域を支える体制？
  - 個人の趣味が「地域のため」につながる。
  - 有償ボランティア、謝礼。
- 町会や商店会など、従来の組織だけでは地域を活発にできない。地域に関わる活動をしている団体、町会、自治会、行政が一体感を持って活動できる仕組みができるとよい
  - 新しい受け皿がない（町会・商店会に代わる）
  - すでにある団体をまずはつなげる。
- 地域にコーディネーター、ファシリテーターが必要。地域の人々の専門性を活かし、プライド、やりがいを持ってもらいながら活動できる体制づくりが必要
  - 「赤ちゃん訪問事業」では、決められた通りにしか活動できないため専門性が発揮できず、プライドや誇りを持って活動できない。
  - 市民館のスタッフが替わり、専門性や地域への密着度が小さくなったため、市民の活動の幅も狭まっているように感じる。
- 市民館など地域を担う包括的な施設が小さな単位で設置されているとよい
  - こ文といこいの家を地域の包括的な拠点となる場所にするとよいのではないか。
  - 小学校区単位で包括的な施設があるといい。

**7** りーぽ

メンバー 矢野、佐藤、中村、松田、橋本

① 民間団体の活動の推進、盛り上げの仕組み

② 自分や家族の足跡を想像しながら、

③ 川口市の人口増加率

④ となりに人があつたらいいか

⑤ 地域活動の推進

⑥ 地域活動の推進

⑦ 地域活動の推進

⑧ 地域活動の推進

⑨ 地域活動の推進

⑩ 地域活動の推進

⑪ 地域活動の推進

⑫ 地域活動の推進

⑬ 地域活動の推進

⑭ 地域活動の推進

⑮ 地域活動の推進

⑯ 地域活動の推進

⑰ 地域活動の推進

⑱ 地域活動の推進

⑲ 地域活動の推進

⑳ 地域活動の推進

㉑ 地域活動の推進

㉒ 地域活動の推進

㉓ 地域活動の推進

㉔ 地域活動の推進

㉕ 地域活動の推進

㉖ 地域活動の推進

㉗ 地域活動の推進

㉘ 地域活動の推進

㉙ 地域活動の推進

㉚ 地域活動の推進

㉛ 地域活動の推進

㉜ 地域活動の推進

㉝ 地域活動の推進

㉞ 地域活動の推進

㉟ 地域活動の推進

㊱ 地域活動の推進

㊲ 地域活動の推進

㊳ 地域活動の推進

㊴ 地域活動の推進

㊵ 地域活動の推進

㊶ 地域活動の推進

㊷ 地域活動の推進

㊸ 地域活動の推進

㊹ 地域活動の推進

㊺ 地域活動の推進

㊻ 地域活動の推進

㊼ 地域活動の推進

㊽ 地域活動の推進

㊾ 地域活動の推進

㊿ 地域活動の推進

① 民間団体の活動の推進、盛り上げの仕組み

② 自分や家族の足跡を想像しながら、

③ 川口市の人口増加率

④ となりに人があつたらいいか

⑤ 地域活動の推進

⑥ 地域活動の推進

⑦ 地域活動の推進

⑧ 地域活動の推進

⑨ 地域活動の推進

⑩ 地域活動の推進

⑪ 地域活動の推進

⑫ 地域活動の推進

⑬ 地域活動の推進

⑭ 地域活動の推進

⑮ 地域活動の推進

⑯ 地域活動の推進

⑰ 地域活動の推進

⑱ 地域活動の推進

⑲ 地域活動の推進

⑳ 地域活動の推進

㉑ 地域活動の推進

㉒ 地域活動の推進

㉓ 地域活動の推進

㉔ 地域活動の推進

㉕ 地域活動の推進

㉖ 地域活動の推進

㉗ 地域活動の推進

㉘ 地域活動の推進

㉙ 地域活動の推進

㉚ 地域活動の推進

㉛ 地域活動の推進

㉜ 地域活動の推進

㉝ 地域活動の推進

㉞ 地域活動の推進

㉟ 地域活動の推進

㊱ 地域活動の推進

㊲ 地域活動の推進

㊳ 地域活動の推進

㊴ 地域活動の推進

㊵ 地域活動の推進

㊶ 地域活動の推進

㊷ 地域活動の推進

㊸ 地域活動の推進

㊹ 地域活動の推進

㊺ 地域活動の推進

㊻ 地域活動の推進

㊼ 地域活動の推進

㊽ 地域活動の推進

㊾ 地域活動の推進

㊿ 地域活動の推進

もう自己特性で地域活動の担っているのは？

- 中高生が地域活動の担っている？
- 個人の志が地域活動の担っている？
- 有償ボランティア？

地域に関わる活動をしている団体、町会、自治会、行政が一体感をもって活動できる

地域のコーディネーター、ファシリテーターが必要。地域の人の専門性をつらね、それが地域の活動を支える。

市民館など地域の施設が小さな単位である

- こがんといいの家を包括的に地域の拠点になる場所にする
- 小学校区単位で包括的な施設があること

社会福祉協会の地域とつながるといい！

ヨコ 自治会、町会

タテ 専門性のある市民団体、ボランティア